

平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	九州の企業の国際化推進原動力となる若手人材の育成及び人間力向上のための教育プログラム		
法人名	学校法人高山学園		
学校名	専門学校福岡カレッジ・オブ・ビジネス		
代表者	理事長 高山 哲信	担当者 連絡先	総務部長:西嶋精隆 TEL092-741-1120

1. 事業の概要

九州ではアジアとの地理的歴史的優位性から、企業においてもアジア地域との国際経済交流がさかんであるが、中小企業においてはその原動力となる人材の育成や確保が難しい場合が多いのが現状であり、国際ビジネス部門の即戦力となる人材を強く求めている。本事業ではこのような地域社会のニーズに応えるべく、貿易会社、商社、メーカー、流通、物流といった分野の海外事業部門において中核的な人材となるために、国際ビジネスの即戦力を身につける4年制の教育プログラム開発を目的として実施した。

開発にあたっては地域の企業の人材ニーズや行政機関あるいは経済団体等の国際ビジネス人材育成に関する考え方をはじめ、実際に国際業務に従事する若手人材の意見を取り入れるための調査を実施し、その結果をふまえてカリキュラムを構成した。

そして教育プログラムの対象に近い高校3年生に上記カリキュラムの一部を実証講座として受講してもらい、受講後の意見や要望をフィードバックした教育プログラムができあがった。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

調査事業を通じて地域の企業の国際ビジネス人材ニーズが高いことを検証でき、且つ企業が国際ビジネス人材に求めるスキルや適性について把握することができた。また企業のみならず地域の行政機関や企業を支援する経済団体の国際ビジネス関連部署にヒアリングをすることで国際ビジネス人材ニーズの実情や将来性、抱えている課題等を具体的に知ることができた。また実際に国際ビジネスに携わっている若手人材からは国際ビジネスに必要なスキルや従事の契機についての経験談を集めることができ、これら貴重な調査結果を具体的なカリキュラムづくりに役立てることができた。

実証講座の受講者をカリキュラムの対象に近い高校3年生に設定することで、開発したカリキュラムの難易度を見ると共に、高等学校卒業後の進路として国際ビジネスへの関心の有無や国際ビジネス関連の実践教育を行う学校での学習意向等を確認することができた。

②事業により得られた成果

実施委員会および「調査」「カリキュラム開発」「実証講座運営」の各分科会で得られた意見や提案、データ等を集約し、4年制(4,000時間)のカリキュラムによって構成される教育プログラムを開発した。(カリキュラムは別紙参照)

またこのカリキュラムの一部に対し、テキストを作成した。

カリキュラム	1年目	2年目	3年目	4年目	合計
ビジネス実務	240	220	140	60	660
国際業務実務	180	100	100	180	560
視察・体験	80	180	360	360	980
ヒューマンスキル	200	200	-	-	400
外国語	300	300	400	400	1400
合計	1000	1000	1000	1000	4000

③今後の活用

開発したカリキュラムを基に、4年制課程設置のための設置基準の検討を具体的(教室数、教員の確保等)に行うと共に、2年制課程への対応も検討したい。

④次年度以降における課題・展開

課題【1】国内・海外の研修先の確保と研修プログラムづくり

- ・地域において国際ビジネスに取り組んでいる企業情報の収集およびその企業の人材ニーズ情報の収集を行い、早い時期に「教育プログラムによって輩出される人材像」を示し、企業視察や経営者セミナーへの登壇、インターンシップ受入への協力等のためのネットワークづくりが必要である。当然ながらこれら研修先への就職の可能性は高くなる。
- ・海外の研修計画において、研修先の国・地域の選定は重要である。国・地域の特性や企業(業種)の特性を考慮した4年間の研修プログラム(詳細)の立案が必要である。

課題【2】学生本人の性格もふまえたキャリア指導のノウハウ確保

- ・性格や考え方の適性が求められる国際ビジネスでは、学生の性格をより国際ビジネスに適したものに導くために早い時期からのキャリア指導が必要である。
- ・本教育プログラムでは学生の性格や行動の分析に役立つ「TCIプログラム」の活用をカリキュラムに含め、定期的なチェックと指導を行うようにしている。その推進役としての人材が教育機関側に必要である。

課題【3】卒業生のケアと活用

- ・国際ビジネスを4年間学び、就職を果たした卒業生は社会人1年生としてさまざまな不安や迷いにさらされる。本年度の実施委員が自ら取り組んで成果を上げている事例として、卒業後も定期的に母校を訪れ、同窓生や当時の教師とのコミュニケーションをとることで不安や迷いが払拭され、やる気が出たり早期退職を防ぐ効果があると教えられた。
- ・一方実証講座において、受講者と年齢の近い若者の体験談は、大変興味深く聴講されたことがわかった。
- ・これらのことから、「卒業生のケア」および「卒業生の活用」についての検討がなされることが望ましい。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

<行政機関、経済団体等ヒアリング調査>

- 調査のねらい／福岡地域の国際ビジネス交流の状況と望ましい人材像について、行政・支援機関・教育機関の意見を聞き、カリキュラムに反映させる。
- 対象／福岡市経済振興局、社団法人福岡貿易会、福岡商工会議所、(私立)希望が丘高等学校。計4件
- 方法／訪問面談(ヒアリング)
- 調査項目／(調査先の取り組んでいる)国際交流事業内容および国際ビジネス交流の傾向・支援策等。国際ビジネス交流に係る人的資源と育成のためのカリキュラムへの要望他。
- 調査結果および分析の内容／・福岡地域の国際ビジネス交流先はアジアが中心で今後ますます増加が予想される。・国際ビジネスに携わる人材は質量共に不足している。・人材に求めるスキルは専門性と人間力、特に仕事への「動機づけ」を目的とした国内・海外研修は重要。

<企業ニーズ調査>

- 調査のねらい／国際ビジネスに取り組んでいる企業の人材確保状況や求められるスキルを把握し、カリキュラムに反映させる。
- 対象／九州に事業所を置く国際ビジネス実施企業。有効数28件
- 方法／アンケート郵送法
- 調査項目／国際ビジネス実施内容。国際ビジネス人材の確保状況と問題点。国際ビジネス人材に求めるスキルと採用時の評価ポイント。国際ビジネスに携わる若手日本人材のニーズについて。国際ビジネス関連学科の利用意向。
- 調査結果および分析の内容／・国際ビジネス人材の不足は4割で、(本事業での育成対象である)若手営業担当の確保希望は5割弱。・国際ビジネス人材に求めるスキルは語学力(9割弱)に次いで性格や人柄といった国際業務への適性(8割弱)・当該教育プログラム卒業生の活用を希望する企業は6割(採用を検討する企業は2割弱)

<国際業務部門従事者ヒアリング調査>

- 調査のねらい／九州に事業所を置く企業に在籍し、実際に国際ビジネスに従事している(あるいはその経験がある)若手人材(～34歳)の経験を聞きカリキュラムに反映させる。
- 対象／機器製造、貿易、人材派遣、旅行、語学教育、コンサルティングに勤務する若手人材。6件
- 方法／訪問面談(ヒアリング)およびヒアリングシートの郵送
- 調査項目／国際業務内容。国際業務に従事するきっかけと学生時代に受けた影響。国際業務に適した性格や考え方。これから国際業務部門をめざす若者へのアドバイス。
- 調査結果および分析の内容／・国際ビジネスに従事するきっかけは学生時代の「留学」「教師の経験談」「語学が好き」「海外への関心」など。・国際ビジネスに必要なスキルは「語学」と「メンタルタフネス」「柔軟な思考」など。

②カリキュラムの開発

- テーマ／国際ビジネス人材育成カリキュラム(4年制)
- 開発経緯／「高度専門士」の称号付与を考慮し年間3,700時間以上の授業時数を確保。人間力育成のための「生きる力育成カリキュラム」とビジネス実践力育成のための「働く力育成カリキュラム」を段階的な構成とすることで開発。調査事業で得られた人材ニーズを反映させたカリキュラムとしてまとめた。実証講座での受講者の意見や要望をフィードバックさせた。
- 対象／高等学校卒業生で将来国際ビジネスに従事したいと考える者
- 手法／カリキュラム開発分科会で作成した原案を調査分科会や実証講座運営分科会の事業結果を反映させたカリキュラムに修正。
- 開発内容／
時間数は年間1,000時間×4年間、合計4,000時間
- ・生きる力育成カリキュラム(400時間)
ヒューマンスキル(400時間・1～2年目)
- ・働く力育成カリキュラム(3,600時間)
ビジネス実務(660時間・1～4年目)
国際業務実務(560時間・1～4年目)
外国語(1,400時間・1～4年目)
視察・体験(980時間・1～4年目)

③実証講座

- テーマ／国際ビジネスに対して高校生がどの程度関心を示すか、また高校生に対する開発中のカリキュラム内容の難易度を見る。
- 期間／平成18年12月8日・14日・15日・18日・19日・21日の合計18.5時間。
- 受講者の属性／学校法人九州電機工業学園希望が丘高等学校3年生の男女。特別進学、保育・福祉、IT、自動車の系列から全講座受講を条件に募集。
- 受講者数／申込者数27名に対し、平均24名が受講。欠席は病欠。また12/19のみは3年生全員106名が受講。
- 場所／希望が丘高等学校図書室および教室。12/21のみ国際コンテナターミナル等の見学と福岡カレッジ・オブ・ビジネス教室。
- 受講者の反応(実証講座アンケートより)／・講座理解度は最高100%、最低77%。・関心度の高い国際ビジネス分野ともっと聞きたい国際ビジネス分野に共通するのは「ITソフトウェア」「貿易・投資」。・行ってみたい外国の都市はソウル、上海、バンコクでいずれも講座で紹介したもの。・外国人とのコミュニケーションを望む人が8割。・将来国際ビジネスに従事してみたい人が6割強。

④その他

(記載事項なし)

(別紙)カリキュラム

ビジネス実務		
I 世界の経済と産業	世界の経済と産業の構造 世界の貿易と国際関係 業界・企業・ブランド	1年目
	ビジネス論と経済学 情報社会 企業活動	2年目
	経営戦略 経営組織と中小企業 起業	3年目
II 演習	PC演習 簿記演習 ビジネスプラン	1～4年目
国際業務実務		
I 国際ビジネス実務	各国の概要とビジネス事情 日本・九州からの進出企業	1年目
	貿易の基礎と実務	2～3年目
	投資 国際ビジネスに必要な技術の知識	2年目
	ビジネスに関連する法務 金融・財務 人事管理	3年目
	国際会計システム 多国籍企業論	4年目
II 演習	ビジネスディベート	3～4年目
視察・体験		
I 国内研修	企業視察・見学	1年目
	経営者によるセミナー	1～4年目
	インターンシップ	2～4年目
II 海外研修	企業視察・見学	1年目
	経営者によるセミナー	1～4年目
	インターンシップ	2～4年目
外国語		
	英語 中国語／韓国語(選択)	1～4年目
ヒューマンスキル		
I ビジネスマナーの基礎	社会人となるために 国際人となるために 演習(敬語、電話応対、職業観等)	1年目
II ビジネスルール	就業中の基本ルール ビジネス文書の作成 演習(文書作成、会議、訪問等)	1年目
III ビジネスコミュニケーション	ビジネス会話	1年目
	コミュニケーション力の向上 演習(依頼、交渉、クレーム処理等)	1～2年目
IV 営業部門に必要なスキル	営業部門の役割 営業部門スタッフの業務 販売時点での能力を高める	2年目
V マーケティング	マーケティングの役割 マーケティング戦略 中小企業のマーケティング 演習(データ作成と加工、分析等)	2年目
VI 企画書の作成	企画書の構成要素 企画書の作成 企画書のオリジナリティと汎用性 演習(企画書作成、プレゼンテーション)	2年目
VII TCI関連プログラム	コミュニケーション力をアップしよう	1～2年目